
にゃんこ話「自殺」

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

にゃんこ話「自殺」

【Nコード】

N7545H

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

にゃん吉が自殺してしまった！！いつたいにゃぜー！！！

家に帰ったら腰を抜かせた。猫のにゃん吉が首を吊っていたのだ。
「ひ、ひいいいいい」

眼球が飛び出し、よだれを垂らしていた。うんこももらしていた。
「ま、まさか。そ、そこまで」

にゃん吉は、隣のミヤーちゃんとの恋に悩んでいた。お互い好き合
っていたが、隣の山本さんが交際を許してくれなかったのだ。

「にゃ、にゃん吉」

オレは、机の上に置いてある紙を開いた。遺書か？

「ふむふむ。何書いてあるかわからん」

肉球の印があるのでにゃん吉が書いたに違いない。しかし、猫なの
で字が書けるわけもなく、ふにゃふにゃした線が書いてあるだけだ。
オレはそれを見ただけで、にゃん吉のやるせなさ辛さが伝わってき
た。

「くそう。山本め！ぶっ殺してやる！」

オレはバッドを持って外を出た。

山本家の窓を割った。

バリーーーン！！！！

侵入した。

あれ。誰か泣いてる。

「お、おばさん」

「あ。たけちゃん。う、う、うわああああああん」

「ど、どうしたのおばさん！」

オレはバッドを置き、あたふたした。

「あ、あれ」

おばさんの指差す方を見ると、げ！

「ミヤ、ミヤーちゃん」

なんと、ミヤーちゃんも首を吊っていた。

なんということか！

オレはどうしていいかわからない。

「き、きつと。あたしがにゃん吉ちゃんとの交際に反対したから」
オレはおばはんの背中をさすった。

「おばさんのせいじゃねえよ。自分を責めるなよ」

「でも、でも」

「うん。うん」

「ミヤーちゃん、オスだもの。どう考えても無理でしょ！」

げ。そうだったのか。かわいかったのでメスだと思っていたが、ミヤーちゃんオスだったんかい。美少年だったのか。

そりやおばさん反対するわなア。にゃん吉のやつ、ホモだったのか。まったく救いようのねえ！

「こ、これ」

「なにこれ」

おばさんに紙をもらい開いた。

「察するにこれ、ミヤーちゃんの遺書ですな」

なに書いてあるかさっぱりわからんもん。肉球押してあるし。でも、よく見たら地図のようであった。

「これ。バツ点を書いてある場所になんかあるのかな」

「????」

「おばさん。見に行ってみようよ」

「いやよ！怖い！」

「だけど、秘密がわかるかもしれないぜ」

「それはそうだけど」

オレはもうおばさんはほっておいて、外を飛び出した。面白そうだ。ミヤーちゃんの書いた地図によると、そのバツ点は山本さんの家の庭の松の木の近くに書いてあった。

「ようし」

オレはシャベルを持ってきて、そこを掘った。

「えいほっ えいほっ」

すると、土の中から、みゃあみゃあという小さい声。

「む。な、なんじゃ」

中から、子猫がぞろぞろ出てきた。

「ま、まさか」

よく見れば、にゃん吉やミャーちゃんにソックリである。

「みゃあ。みゃあ」

「うにゃあん」

し、しかし、ミャーちゃんもにゃん吉もオスなんだぞ!!!

オレは意味がわからず、再度腰を抜かせた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7545h/>

にゃんこ話「自殺」

2010年10月21日20時40分発行